

出雲崎 ふるさと語り部

案内ルート

良寛記念館

良寛生誕200年を記念に発起され、昭和40年5月開館。良寛の遺品、遺墨のほか、良寛の逸話をテーマにした棟方志功などの作品も展示。

良寛堂

良寛の生家橘屋跡地に建つ小堂。室内には良寛が常に持ち歩いたという石地藏をはじめ、良寛の詩が刻まれている多宝塔が安置されている。

道の駅 越後出雲崎天領の里

江戸時代、天領であった出雲崎を再現した「天領出雲崎時代館」、石油産業発祥地、出雲崎の石油掘削にまつわる歴史等を展示した「出雲崎石油記念館」のほか、土産物、食事処、公園等の揃った観光施設。また、日本海に突き出した「夕風の橋」は絶好の夕日スポットであるとともに縁結びの橋としても知られている。

芭蕉園

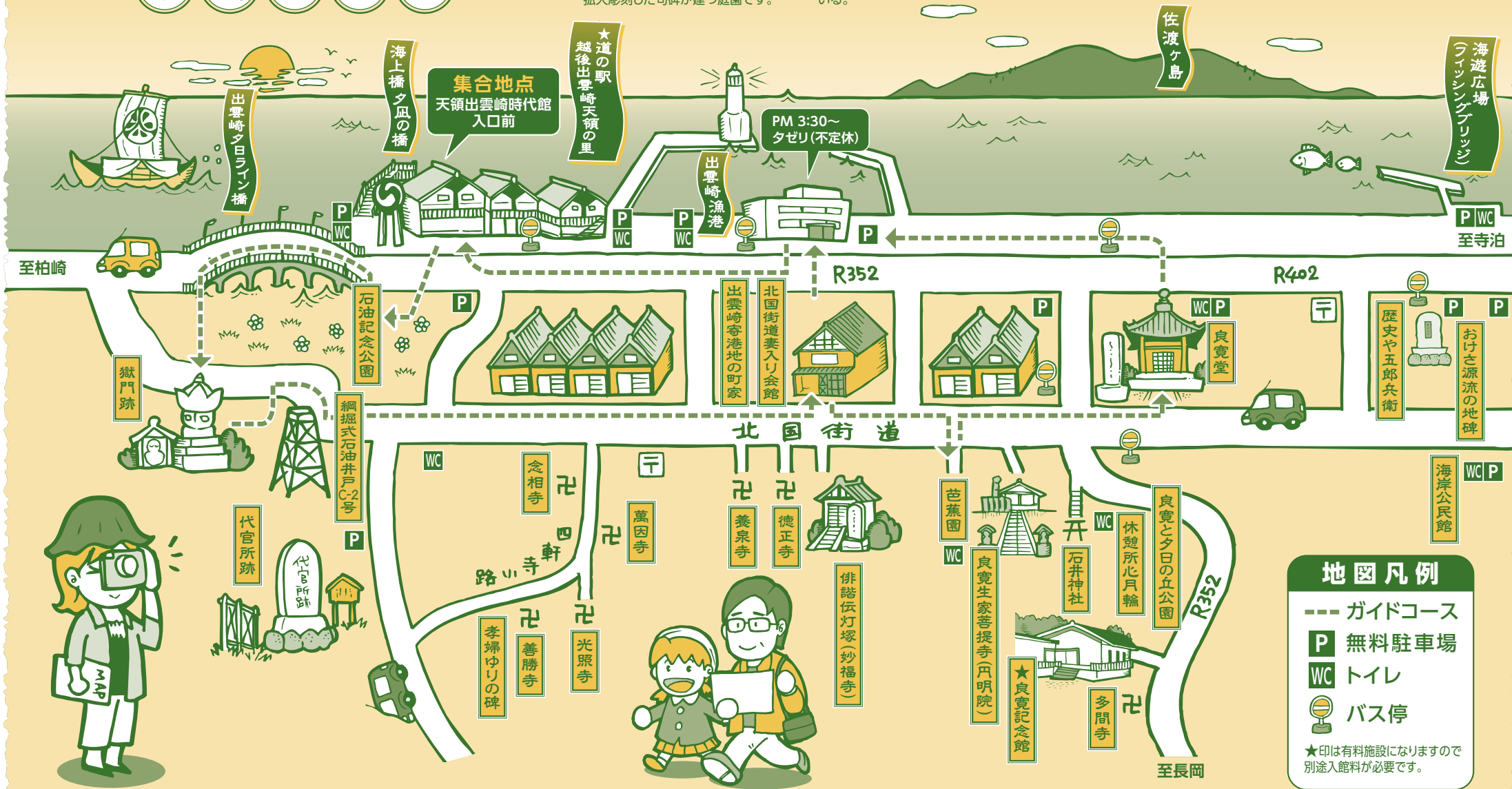
1689年、松尾芭蕉は出雲崎を訪れ、「荒海や佐渡によこたふ天河」の名吟を残しました。芭蕉真筆の「銀河の序」全文を拡大彫刻した句碑が建つ庭園です。

獄門跡

江戸天領時代、罪人の処刑場であった。良寛は名主見習い時の、首切りの立会いが嫌で出家したとも言われている。

妻入りの街並

江戸天領時代、出雲崎は越後経済の中心地であり、人口は爆発的に増加した。また、当時は間口の広さで税金を取っていた。これらのために間口が狭く奥行き長い「妻入り」の街並が日本一の長さ約3.6kmにも渡り、形成された。



地図凡例

- ガイドコース
- P 無料駐車場
- WC トイレ
- バス停

★印は有料施設になりますので別途入館料が必要です。